資料５

釧路湿原全域植生調査の概要

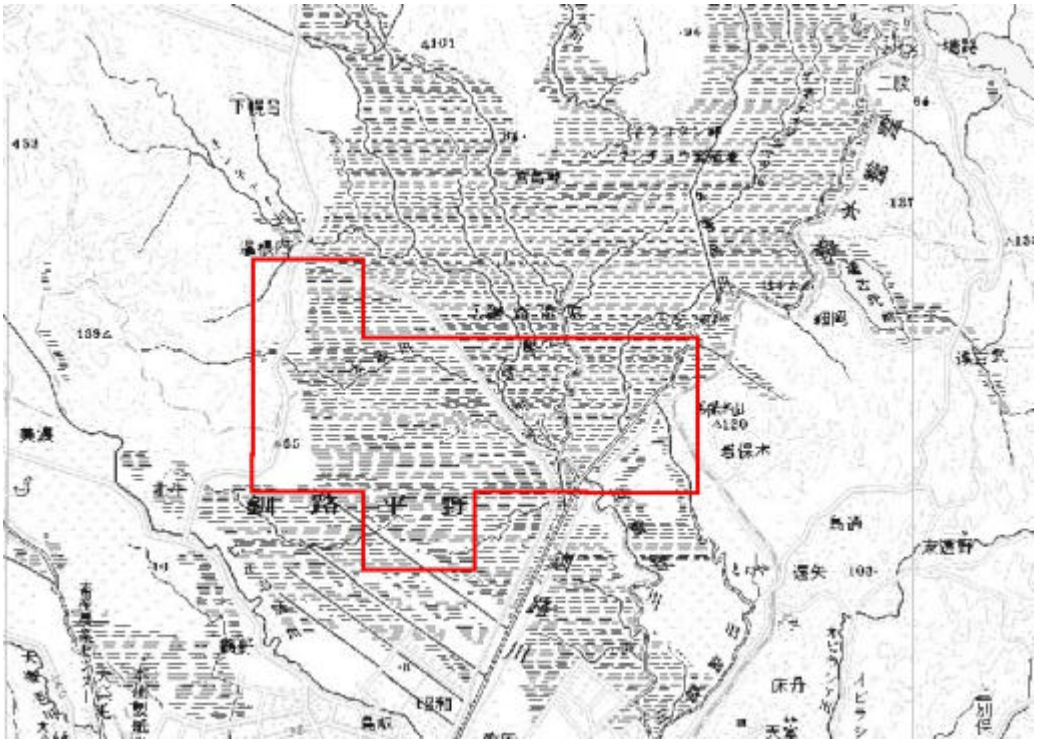
１．調査目的

植生は湿原生態系の基盤をなすものであり、今後自然再生事業を進めていく上では、学術研究レベルに耐えうる植生情報が必要不可欠となる。これまでの釧路湿原での植生調査では、リモートセンシング技術を用いて大まかな植生区分は判明している。しかし、湿原への立ち入りが困難なため、現地調査がままならない区域も広く残されており、釧路湿原全域を対象とした植物社会学的な研究レベルでの調査成果はまだ得られていない。

そこで、釧路湿原自然再生事業の一環としてこれまで蓄積された様々な情報を整理しつつ、ＧＩＳ等各種の新しい技術を組み合わせて効率的に環境を把握できる手法を検討し、現地での調査によってその精度を上げることにより、全域での植生図を作成することを目的とする。

２．平成１４年度調査概要

（１） 調査位置



調査対象地位置図

（２）調査内容

①調査計画検討

植生等の専門家（別記）の意見をふまえ、植物社会学的な調査レベルを反映した植生図作成において必要となる、作業項目や調査計画等を検討し、全体的な作業工程計画を立案する。

②現地調査の準備

・資料収集整理
釧路湿原植生に関する既存調査結果、文献、航空写真等を収集整理する。

・空中写真判読
平成12年度釧路市撮影の空中写真をベースに、他の情報を組み合わせながら調査対象区域の植生判読を行って、植生の仮区分図を作成する。なお、将来的に各種情報のＧＩＳ化が図られることに配慮し、情報のデジタル化による作業の効率化を図る。

③現地調査及びデータ整理

現地調査は、専門家の指導のもと、７～８月に実施する。

まず、現地調査対象地域を概査し、出現植物の記録とともに方形区設置地点の選定を行う。その後方形区調査を実施し、群落組成等の各種データの収集を図る。
方形区での群落組成調査結果より、植物の同定及び標本作製、群落組成の解析を行う。

さらに、現地調査での、調査位置、現況写真等の整理を行うとともに調査対象範囲分について植生図の原図案を作成する。

【※植生等専門家】

○辻井達一　　北海道環境財団理事長
○橘ヒサ子　　北海道教育大学旭川校教授
○冨士田裕子　北海道大学助教授
○金子正美　　酪農学園大学助教授
○佐藤雅俊　　帯広畜産大学助手
○高嶋八千代　北海道教育大学釧路校講師
○新庄久志　　釧路国際ウェットランドセンター主幹